

小学校教科等研修講座（社会科）

教科等指導員 緑丘小学校 教諭 井上 和也

担当指導主事：時村 孝完

キーワード：新学習指導要領 探究 資料活用

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
12月7日（木）	緑丘小学校 井上 和也 教諭	有岡小学校 有っ子ホール・講話	「新学習指導要領に向けた社会科授業づくり」
2月15日（木）	兵庫教育大学 副学長 米田 豊 氏 授業者：瑞穂小学校 藤原 和人 教諭	瑞穂小学校 研究授業・事後協議	「伊丹市のうつりかわり（第3学年）」

2 主な内容

(1) 「新学習指導要領に向けた社会科授業づくり」

平成30年度より新学習指導要領への移行期間がはじまる。伝達講習などをおして、改訂のポイントが学校現場へ伝えられている。そこで、新学習指導要領改訂のポイントで示されている「生きてはたらく知識・技能の育成」をどのように捉えるか、「主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善」をどう行うかについて、伊丹市小学校社会科研究会の協力も受け、研修講座を行った。

第1回研修講座では、子どもの既有知識と矛盾する事象に出会わせ、その事象が「なぜ」起こるのかを問い、仮説を設定し、仮説を検証することで「なぜ」を解決するという方法で授業研究を進めていくことを確認した。

(2) 「伊丹市のうつりかわり（第3学年）」

研究授業では、「1949年（開業当時）から1958年の9年間で、伊丹市営バスの路線が広がった理由」について探究を行った。

2つの時代の路線図を比較し、違いを見つけることから、「なぜ」を発見し、本時の問いを導いた。児童は、前時までの既習知識や生活経験から、「人がふえたから」「駅が近くなかったから」「お出かけに便利になるから」といった予想をたてた。授業者は、予想を検証するための資料として、伊丹市の住宅分布図と市バス路線図を重ねて見られる資料を用意した。児童は、路線と住宅の関係を発見し、家の近くにバスが通るようになったことを理解した。しかし、バス路線と仕事場である工場との関係、駅との関係を発見することは難しかった。

事後協議では、資料の活用方法と教材研究の仕方を中心に討議を行った。住宅分布については、9年間の変化が読み取りにくい、一度に多くの資料を配布したために児童の思考がまとまらなかったという意見が出た。資料の内容や提示の仕方は、改善する必要がある。

講師の米田氏からは、2つのプロジェクターを使った資料提示の方法や本時の目標設定のあり方についての指導助言をいただいた。



3 成果と課題

(1) 成果

新学習指導要領改訂に向けて、伊丹市の社会科授業をどのように行っていくかについての方向性を確認することができた。

(2) 課題

今後も資料活用の方法や授業構成の改善をすすめるための授業研究を実施し、教員の指導力を向上させる必要がある。